



# 「こんにちは 市長です」 6月1日号

マンガ本ってあまり読んだことがない。少年時代の書店はナカムラヤだけで家からは遠く、近所にはなかった。親もマンガというといい顔をしなかった。なのに『赤胴鈴之助』と『塚原ト伝(ぼくでん)』は記憶にある。少年剣士と剣道の達人が主人公のマンガ本である。どこから手に入れたのか、学校で友達に借りたのかもしれない。親はよく本を買ってくれてはいたが題名すら覚えていない。『赤胴鈴之助』『塚原ト伝』だけは今でも頭に残っている。

大学に入った年は日米安保条約に反対する学生運動が真っ盛り、連日デモが国会議事堂周辺に押し寄せていた。ノンポリ(ポリシーのない)の私はデモより早慶戦。当時は軟派の平凡パンチか硬派の朝日ジャーナル。マンガが入る隙はなかった。私は朝日ジャーナルで気取った。田舎者とばかにされたくないという理由だけ、何が書いてあったか知らない。そして、マンガ文化が開花する。

西複合施設の図書館に何か圧倒的な特徴が欲しいと考えてきた。「何かないかね」とあちこち聞いてみても、これといった案はない。新田図書館に2300冊ものマンガ本がある。これを基軸に「マンガはどうだろうか」と提案すると「いいですね」という人が大多数。マンガの充実はいいと思う。建設工事は今年の暮れには発注したい。マンガに縁のない私にも『トキワ荘』が手塚治虫の宿屋、漫画家修行の下宿先なんてことは知っている。豊島区の椎名町は私のサラリーマン時代のなじみの地。『ドカベン』や『キャプテン翼』、『スラムダンク』は子どもたちの夢をつくってきた。

マンガ本、2万冊の図書館ってどうでしょうか。(5/11記)